令和8年熊本地震における活動報告

川崎医科大学総合医療センター DMAT

業務調整員：安尾 哲郎

活動概要

派遣隊員

医師　：　杭ノ瀬 慶彦(心臓外科)初の災害派遣
看護師　：　田﨑 修平 ・ 塩出 早耶香
業務調整員　：　安尾 哲郎



活動期間

７月30日～8月1日

活動場所

やすらぎ荘(氷川町)　/　東病院(熊本市)　/　済生会熊本病院(熊本市)

Command

熊本県DMAT調整本部

県央南活動拠点本部(済生会熊本病院)

7月30日16～17時に約50チームのDMATが参集
（中国地方5県＋四国地方4県）

県南活動拠点本部(熊本労災病院)

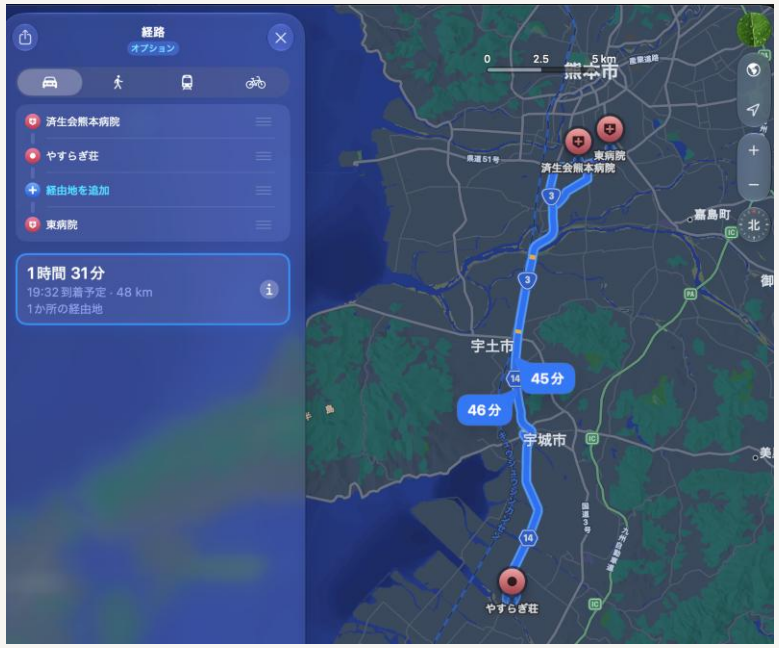


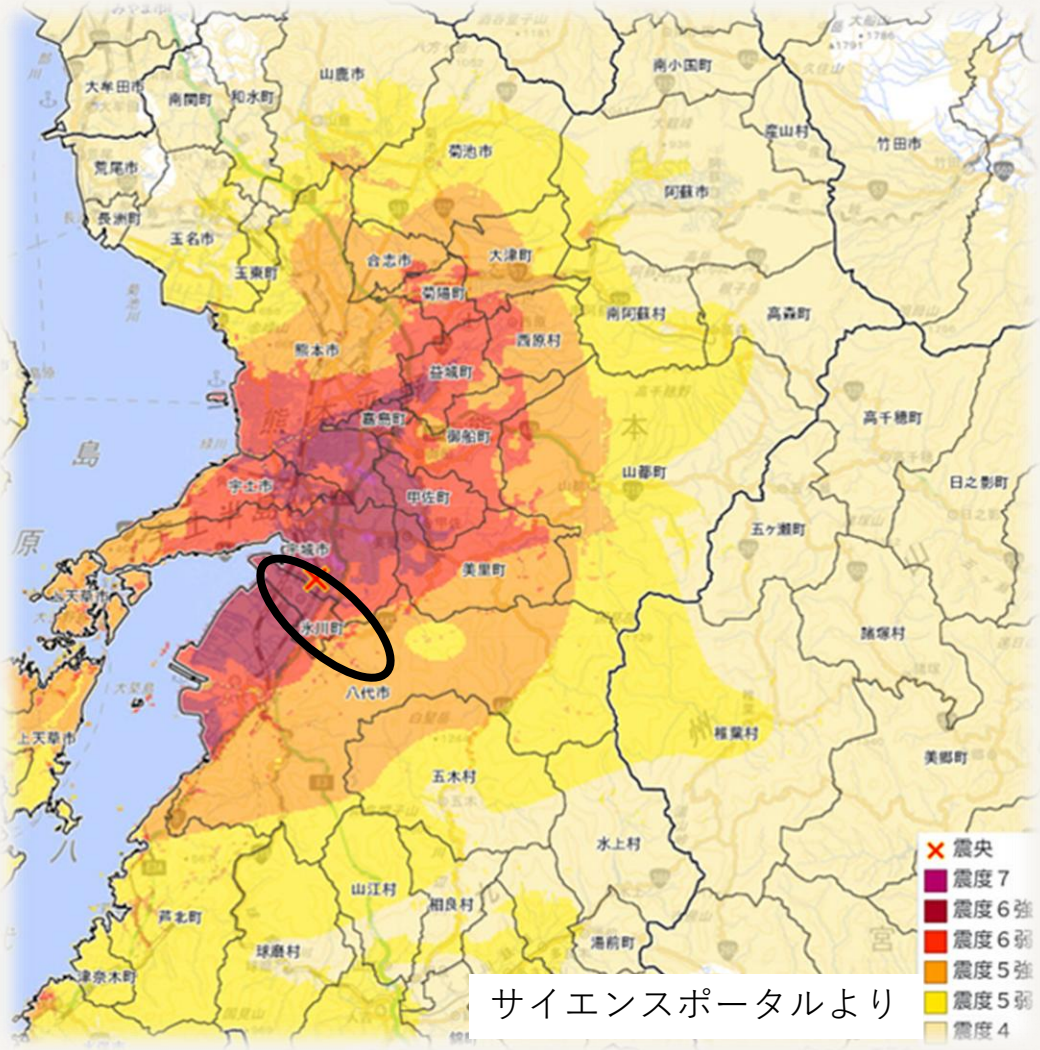


活動内容

7月30日

6:30　川崎医科大学総合医療センター出発
15:15　済生会熊本病院到着
16:30　活動拠点本部から活動指示
　氷川町にある「やすらぎ荘」という高齢者施設の入居者を熊本市内の東病院へ搬送してほしい。場合によっては2往復必要になるかもしれない。





サイエンスポータルより

熊本市外に出ると、道路や家屋に被害が見られた。



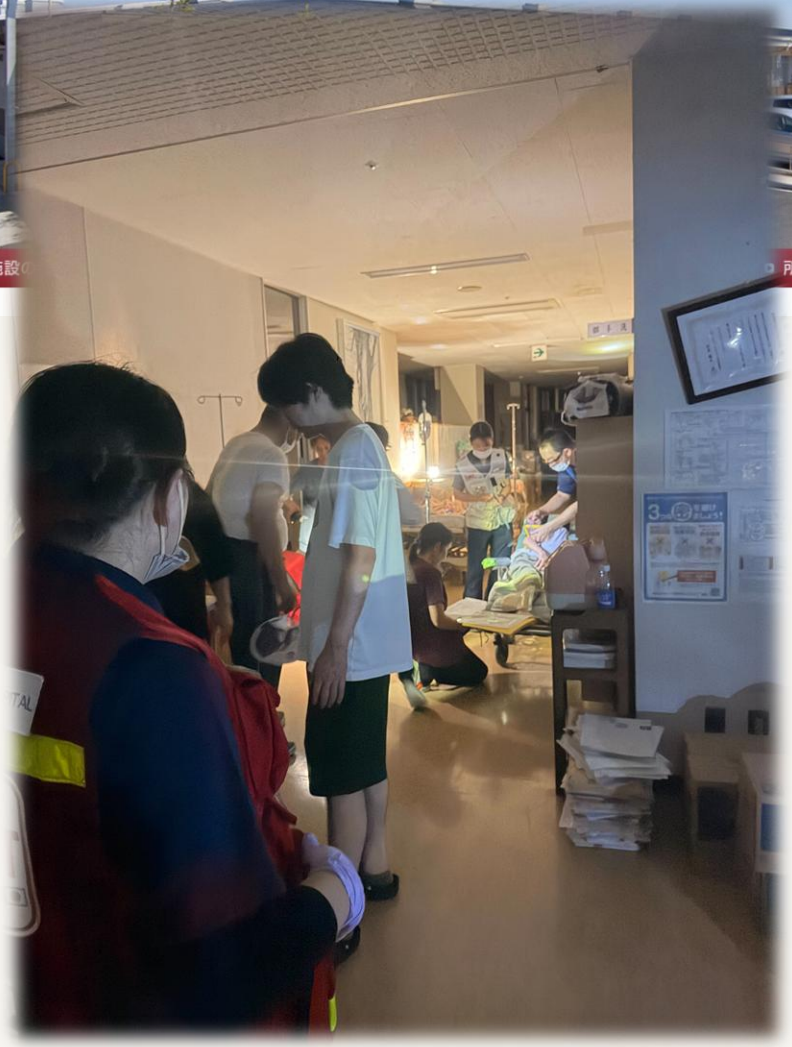


16:45　やすらぎ荘到着

約70人の高齢者が入居。
発災以降、停電しており空調を使えず。
職員が入居者の身体に霧吹きで水をかけて、扇いでいる状況。熱中症多数。







ドクターカー内でルートを取って搬送。
38℃を超える体温、頻脈などの症状。





18:45　東病院到着

患者搬入と申し送り。別のチームと情報共有。

2往復目に向かう。





近森病院(高知)

雲南市立病院(島根)

など

19:40　やすらぎ荘到着
　　日が暮れ、施設内はライトや懐中電灯の灯りのみ
20:00　やすらぎ荘出発





20:55　東病院到着
20:10　東病院出発し、活動拠点本部へ。
　　明日の活動指示
　　済生会熊本病院救急外来の時間外業務の支援に入ってもらいます。
　　16時に活動拠点本部に来て、翌朝までの活動になります。

22:00　宿到着。

「なんとか耐えております」扇風機だけの老人ホーム　熊本・氷川町　熱中症になる人も

2026年7月30日 22時40分

コメント 0　あとで読む

熊本県で最大震度7の地震が発生して3日目の30日、現地は最高気温35度以上の猛暑日となり、冷房が使えず熱中症になる高齢者らが相次いだ。2016年の熊本地震では長引く避難生活や車中泊に起因する「災害関連死」が死者の8割を占め、猛烈な暑さが加わる今回、体調悪化をいかに防ぐかが課題。ライフラインの復旧も見通せない中、不安を抱えた避難生活が続いている。

◆窓を開け放ったホールにベッドを並べて

最高気温35.2度となった八代市に隣接する氷川町の老人ホーム「やすらぎ荘」。食事などに使うホールにベッドが30台ほど並べられ、普段は個室で過ごす70代以上の入居者が肌着姿でうちわをあおいでいた。

町内は停電が続き、空調設備は使えない。窓を開け放ったホールの隅には、扇風機と簡易クーラーが1台ずつあるだけ。「なんとか耐えております」。90代の女性利用者が弱々しく話した。地震のショックなのか、水分や食事を十分に取れない入居者もいるという。



委託を受けた医師が毎日往診しているが、この日は体温が39～40度に達し、熱中症と診断される人が増加。「もともと体の弱い高齢者がこの暑さを過ごすのは危険」と医師は話し、利用者80人のうち13人を設備が整った熊本市内の医療機関に移送することを決めた。

7月31日

15:30　活動拠点本部に到着
　　昼間に支援に入ったチームから申し送り・引き継ぎ。
　　オンコール体制。
19:00　救急外来から支援要請。
　　19:30～24:00で15台前後の救急搬送。

8月1日

1:00　控え室で待機(随時仮眠)
9:00　日中のチームに申し送り。
　　夜勤明けで日中の活動ができないため、活動終了の指示。
12:00 宿の片付け等を行い、撤収







課題・反省点



出動前の準備

7月28日16:27の発災から7月29日15:59の派遣要請のメール受信までにもっとできることがあったのでは？

資機材・薬品等の準備はできていたが、暑さ対策の物品、飲料水などは派遣決定後に準備することになった…。

派遣メンバーの選定も慌てて行った。

家庭の調整、仕事の調整をもう少し余裕を持ってできたのでは？

活動中の薬品管理

猛暑のため、エンジンを切ると、すぐに車内が高温になっていた。
なるべく、車内から持ち出す、室内に置いておくなど配慮できる点はあった。

後方支援体制

◯院内に残っている業務調整員(日本・ローカルも含めて)を中心に後方支援。
　宿泊場所の確保・物品の購入・活動中の会計など

◯情報共有の方法
　病院長・事務部長・派遣中の隊員の所属長・院内に残っているロジ/コアメンバー・派遣中ロジでLINEグループを作り、活動について随時報告。
　情報の錯綜、混乱、ストレスを防ぐために、派遣中チームからはロジのみをグループに入れた。



今回の活動での気づき

震度7の地震　＋　記録的猛暑

複合災害

停電や断水が起きると、高齢者施設は早期に危険な状況になる！

受援の体制と意識

済生会熊本病院：病院支援というよりは救急外来診療に対するピンポイントの支援
　受援側の受け入れがスムーズ
　支援側に任せるところと受援側がやるところの線引きに混乱がなかった。
東病院：約60床だが、やすらぎ荘の入居者を20人以上受け入れ

受援・支援の経験や訓練の経験があるのはかなり大きい